

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：12611

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26284093

研究課題名(和文) 東アジアにおける礼・儀式・支配構造の比較的研究～唐宋変革期の中国・朝鮮と日本～

研究課題名(英文) Comparison historic study on ritual, ceremony, rule structure in the East Asia  
: About Tang and song change period of China, Korea and Japan

研究代表者

西澤 奈津子(古瀬奈津子)(NISHIZAWA, Natsuko)

お茶の水女子大学・基幹研究院・教授

研究者番号：20164551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：古代日本においては、律令制の導入に続いて、8世紀になってから礼の本格的な導入が始まり、9世紀には儀式書の成立という形に結実する。その後9世紀から12世紀にかけての古代から中世の変革期において、中国の礼を受容して形成された儀式が支配構造との関係でどのように変容したかを、中国の賓礼や軍礼、凶礼などに該当する儀式を検討することによって明らかにした。また、同時期の中国や朝鮮半島諸国の礼や儀式の変化と比較することによって、日本の儀式の変化の特徴に迫った。その結果、中国において当該期に礼や儀礼が庶民化すること、皇帝権力の伸長により変化があることなどが確認された。

研究成果の概要(英文)：In ancient Japan, following the introduction of the rule system from China, the full-scale introduction of courtesy from China began in the 8th century, and in the 9th century it was fruited as a ritual text. By examining Japanese rituals applicable to the Chinese rituals of guests, omen rituals, military rituals, etc., we clarified how the Japanese rituals formed by accepting China's courtesy were transformed in relation to the dominant structure, in the transformation period from ancient times to the medieval times in the 9th century through the 12th century. In addition, by comparing changes in rites and ceremonies in Japan of those in China and countries in the Korean Peninsula in the same period, we approached the characteristics of the changes in the ritual of Japan.

研究分野：日本古代史

キーワード：日本史 古代史 儀式 礼 支配構造 日中比較史 日中交流史

## 1. 研究開始当初の背景

古代日本は、7世紀以降、白村江戦を契機に中央集権国家形成のために、唐の律令制を積極的に導入するに至った。古代日本では、社会構造が中国とは異なるため、社会的規範である礼をそのまま継受せず、礼的内容を含む律令を継受し、8世紀に大宝律令と養老律令が成立した。養老の遣唐留学生・天平勝宝の遣唐副使であった吉備真備が唐礼を将来し、礼の本格的継受が開始された。この後、8世紀半ばから9世紀半ばにかけての礼の継受は、主に儀式の成立という形で行われ、平安時代前期には、『内裏式』『内裏儀式』『儀式』の儀式書が朝廷によって編纂された。ただし、それは神話的・氏族制的イデオロギーに代わる新しい政治的イデオロギーとしての側面が強かった。すなわち、日本の儀式は、あくまでも朝廷内における秩序維持のためのもので、そのため支配構造との関係が深く、社会的規範としての性格をもたなかった。

このように礼を継受した日本の儀式についての研究は1980年代から盛んになってきたが、従来の研究は、貞観年間(9世紀半ば)で終わっている。その後10世紀以降は、致敬礼・車礼・路頭礼など狭義の礼節に限定されていくとされている。一方で、これらの礼は中世以降、武家や民衆にも浸透していき、社会的規範となっていくことが指摘されている。しかし、9世紀半ば以降についての詳しい研究はない。

## 2. 研究の目的

古代日本は中国から律令制をはじめ様々な制度や文化を受容して文明化を行った。中国では、律令と並んで社会的規範である礼が編纂されたが、日本では、8世紀になって礼の本格的な導入が始まり、9世紀に儀式書という形に結実する。日本の儀式は、朝廷内における秩序維持のためのものだった。その後、日本では礼の受容は後退するとされているが、本当にそうなのだろうか。本研究では、9世

紀半ば以降12世紀にかけての古代から中世への変革期において、礼を受容して形成された儀式が支配構造との関係でどのように変容し展開していくのかを、同時期の唐宋変革期の中国や朝鮮との比較によって、相対的に明らかにすることを目的とする。その結果、日本の基盤的社会と文化の成立過程、そして日本の基盤的社会と文化が有する中国および朝鮮との関係性と同時代性が明確になると考えられる。

## 3. 研究の方法

9世紀半ば以降12世紀にかけての日本の儀式について、(1)政治的儀式と中国の吉礼・嘉礼、(2)喪葬儀式と凶礼、(3)外交儀式と賓礼、(4)生活における礼の導入(書札礼・致敬礼・車礼・路頭礼等)、(5)礼の背景の5グループに研究代表者・研究分担者と連携研究者、国内外の研究協力者が分かれて各々研究を行う。その際、支配構造との関係を考慮する。

第1グループは、研究分担者の大隅・藤森・金子・桑野、研究協力者の末松が担当して、政治的儀式の変化と中国の吉礼・嘉礼および関連する儀式の変化を比較検討する。第2グループは、研究分担者の稲田と連携研究者の松岡が担当し、日本古代における喪葬儀式が中国の凶礼をいかに継受し変容させたかを、唐代後半期から北宋の礼の新しい動向と比較して解明する。第3グループは、研究分担者の石見が担当し、唐代後半期から北宋にかけての中国を中心とした新たな国際関係と賓礼について考察する。第4グループは、研究代表者の古瀬と連携研究者の野田が担当し、日本の生活における礼の導入と中国との比較を行う。第5グループは、軍礼および礼の背景について、連携研究者の安田・和田、研究協力者の吉永・武井が担当する。

毎年3回公開研究会および国際シンポジウムを開催して、それぞれの研究成果を発表し、

問題を共有化する。その際、中国や台湾、韓国から中国史の研究者を招聘して、中国、朝鮮半島と日本の礼と儀式について比較の視点から意見交換を行う。また、中国・台湾・韓国において礼制に関する史跡・遺跡や史料の現地調査を行い、研究に反映する。

#### 4. 研究成果

2016年度には、7月と3月に国際シンポジウムを行った。7月には「外交関係と賓礼」をテーマに、栢根興（中国・陝西師範大学）「唐朝的賓礼儀式及其实施考論—以与新羅的交往为中心」、河上麻由子（奈良女子大学）「9～10世紀の外交と仏教」、廣瀬憲雄（愛知大学）「延喜年間日本の外交儀礼 朝政と食事の時刻から」、谷田淑子「渤海使の帯びる渤海官職の再検討」の報告を行った。その結果、唐における新羅に対する賓礼の具体相、唐の後の五代における対外交流と僧侶の関与、10世紀の日本における外交儀礼と朝政の関係、日本への渤海使の有する官職についてなど、唐代後半期以降の外交関係と賓礼に関して新たな局面が明らかとなった。

3月には、趙晶（中国政法大学）「唐令復原再思考 - 以令式分辨為線索」、末松剛（九州産業大学）「平安時代の饗宴 - 「望月の歌」再考 -」、稲田奈津子（東京大学史料編纂所）「喪葬儀礼と文字資料 - 随葬衣物疏を中心に -」、矢越葉子（明治大学PD）「北京調査報告 中国国家博物館「絲綢之路」展と中国国家典籍博物館」の報告を行った。

2017年度には、7月に「喪葬儀式と凶礼」をテーマに、吳麗娛（元中国社会科学院）「中古舉哀儀溯源」、稲田奈津子（東京大学史料編纂所）「殯宮の再検討」、山下洋平（九州大学人文科学研究院）「北魏孝文帝の国政改革と臣下服喪儀礼」、桑野栄治（久留米大学）「朝鮮仁祖代における対明遥拝儀礼の変容 明清交替期の朝鮮」の報告を行った。中国の凶礼である挙哀儀について、漢代以後に挙

哀と臨弔が分離して成立し、兩晋以後に正式化して整備され、唐宋に至るまでその制度はおよそ同じである。ただし、宋代には皇帝は大功親と二品以上に対してのみ挙哀儀を行い、皇帝権力のあり方と門閥制から官僚制への変化を反映している。外国君主にも行う点が、宋代の外交の必要性を示していることなどが明らかになった。

また、2年間の研究成果などを集めて、『東アジアの礼・儀式と支配構造』（吉川弘文館、2018年3月）を刊行した。

2018年度には、8月と3月に国際シンポジウムを行った。8月には「軍礼と兵制」をテーマに、王博（中国社会科学院）「唐代軍礼の成立前提とその性格について 田狩礼を中心に」、吉永匡史（金沢大学）「日唐の射礼と支配秩序 唐軍礼の継受をめぐる」、大隅清陽（山梨大学）「平安前中期内裏における天皇の玉座について」の報告を行った。3月には「礼の導入と変容」をテーマに、甘懷真（国立台湾大学）「『通典』から見る八世紀中国の教化観念（「從《通典》看第八世紀中國的教化觀念」）」、古瀬奈津子「敦煌の吉凶書儀の展開と日本の往来物について」、石見清裕（早稲田大学）「『大唐開元礼』のその後 唐後半期の儀礼書論議」の報告を行った。

また、2018年度9月に、台湾に赴き、故宮博物院において『宋刑統』・『唐律疏議』元刊本、中央研究院歴史語言研究所において『広開土王碑』原石拓本、居延漢簡、国家図書館において『開元礼』写本、校勘記などの史料調査を行った。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計18件)

稲田奈津子、殯宮の立地と葬地、東京大学日本史学研究室紀要、21号、査読無、2017、1-18、オープンアクセス予定、

石見清裕、浅談粟特人的東方遷徙、唐史論叢、23号、査読無、2016、61-69

桑野英治、朝鮮仁祖代における対明遙拝儀礼の変容 明清交替期の朝鮮、比較日本学教育研究センター研究年報(お茶の水女子大学)、12号、査読無、2016、168-202、<http://hdl.handle.net/10083/58748>

稲田奈津子、藤原順子のための天皇喪服議註釈『日本三代実録』貞観十三年九月二十八日~十月七日条、法史学研究会会報、18号、査読有、2015、82-102

石見清裕、唐代墓誌の古典引用をめぐって、中国古典研究、57号、査読有、2015、1-16

金子修一、則天武后 女帝と祭祀、アジア遊学、191号、査読無、2015、78-90

稲田奈津子、日本古代の火葬 文献史料から見た一、歴史と民俗、31号、査読無、2015、41-65

金子修一、歴史から見る東アジアの国際秩序と中国 西嶋定生氏の所論に寄せて一、ワセダアジアレビュー、16号、査読無、2014、18-23

石見清裕、『天聖令』と唐のソグド人、アジア遊学、175号、査読無、2014、87-100

〔学会発表〕(計29件)

稲田奈津子、殯宮の立地と葬地 艇止山遺跡の評価をめぐって一、新羅史研究会、2017年1月14日、立教大学

金子修一、則天武后之治世与其後、浙江大学講演会、2016年12月28日、浙江大学(中国)

石見清裕、ソグド人墓誌から見えてきたこと、東方学会秋季学術大会、2016年11月5日、京都市国際会館

古瀬奈津子、8世紀の遣唐使と阿倍仲麻呂、奈良文化講座、2016年10月19日、読売ホール

古瀬奈津子、遣唐使と東アジアの国際情勢、国立台湾大学歴史学系講演会、2016年3月30日、国立台湾大学

金子修一、唐以前の東アジアに授与される称号の特質について、Northeast Asian History Foundation、2015年10月5日、Seoul(Korea)

IWAMI Kiyohiro, Sogdian Eastern Immigration and the Establishment of the Tang Dynasty, 2015Silk-Road International Academic Conference、2015年8月22日、Gyeongju 慶州(Korea)

稲田奈津子、殯儀礼の再検討、日本史研究会古代史部会例会、2015年3月1日、京都機関紙会館

金子修一、則天武后と長安 唐代政治史の一齣、「古代長安と東アジア文化交流」学術シンポジウム、2014年8月23日、西北大学(中国)

大隅清陽、コメント、国際東方学会会議、2014年5月24日、日本教育会館

〔図書〕(計23件)

土肥義和・氣賀澤保規編(古瀬奈津子)、敦煌・吐魯番文書の世界とその時代(書儀・往来物を通じてみた日唐親族の比較研究)、東洋文庫、2017、516(187-200)

大津透編(大隅清陽)、撰関期の国家と社会(撰関期内裏における玉座とその淵源)、山川出版社、2016、281(102-122)

古瀬奈津子編、東アジアの礼・儀式と支配構造、吉川弘文館、2016、312

石見清裕編、ソグド人墓誌研究、汲古書院、2016、454

桑野英治、李成桂 天翔る海東の龍、山川出版社、2015、86

稲田奈津子、日本古代の喪葬儀礼と律令制、吉川弘文館、2015、280

三田古代史研究会編(藤森健太郎)、法制と社会の古代史(元日朝賀儀礼の変質と小朝拜の成立)、慶應大学出版会、2015、330(93-112)

倉本一宏編(古瀬奈津子)、日記・古記録の世界(藤原行成『権記』と『新撰年中行事』)、思文閣出版、2015、771(609-632)

新川登亀男編(石見清裕)、仏教文明と世俗秩序 国家・社会・聖地の形成(中国・山西太原の政治文化的背景 旧太原城の自然・交通・地政学的位置)、勉誠出版、2015、616(187-211)

金子修一編、梁職貢図と東部ユーラシア世界、勉誠出版、2014、560

北岡伸一・歩平編(古瀬奈津子)、「日中歴史共同研究」報告書1 古代・中近世史篇(日本人と中国人の相互認識)、勉誠出版、2014、611(405-425)

高明士編(古瀬奈津子)、中華法系與儒家思想(従書札礼看日唐親属的比較研究)、国立台湾大学出版中心、2014、488(403-416)

大津透等編(大隅清陽) 岩波講座日本歴史3 古代3(律令官僚制と日本) 岩波書店、2014、336(75-108)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等：お茶の水女子大学比較日本学教育研究センターHP  
<http://www.cf.ocha.ac.jp/ccjs/index.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西澤奈津子(古瀬奈津子)  
(NISHIZAWA Natsuko)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  
研究者番号：20164551

### (2) 研究分担者

大隅清陽(OSUMI Kiyoharu)  
山梨大学・総合研究部・教授  
研究者番号：80252378

藤森健太郎(FUJIMORI Kentaro)  
群馬大学・教育学部・教授  
研究者番号：00373473

稲田奈津子(INADA Natsuko)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号：60376639

金子修一(KANEKO Syuichi)  
國學院大学・文学部・教授  
研究者番号：60093952

石見清裕(IWAMI Kiyohiro)  
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：00176562

桑野英治(KUWANO Eji)  
久留米大学・文学部・教授  
研究者番号：80243864

### (3) 連携研究者

野田有紀子(NODA Yukiko)  
お茶の水女子大学・グローバルリーダーシップ研究所比較日本学教育研究部門・研究協力員  
研究者番号：20447569

安田次郎(YASUDA Tsuguo)  
お茶の水女子大学・名誉教授  
研究者番号：60126191

和田英信(WADA Hidenobu)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・教授  
研究者番号：20231037

松岡智之(MATSUOKA Tomoyuki)  
お茶の水女子大学・基幹研究院・准教授  
研究者番号：80323559

### (4) 研究協力者

末松剛(SUEMATSU Takeshi)  
九州産業大学・国際文化学部・准教授  
研究者番号：20336077

吉永匡史(YOSHINAGA Masafumi)  
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授  
研究者番号：20705298

武井紀子(TAKEI Noriko)  
弘前大学・人文社会科学部・准教授  
研究者番号：30736905